

平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年11月8日

上場会社名 株式会社ゼンショーホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 7550 URL http://www.zensho.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長兼CEO (氏名) 小川 賢太郎
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ経理本部長 (氏名) 丹羽 清彦 (TEL) 03(6833)1600
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月8日 配当支払開始予定日 平成29年12月5日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	290,980	8.3	10,027	△5.9	10,114	1.1	5,106	3.8
29年3月期第2四半期	268,647	2.0	10,654	69.0	10,007	70.9	4,917	98.2

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 4,900百万円(14.4%) 29年3月期第2四半期 4,283百万円(114.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	34.45	—
29年3月期第2四半期	33.07	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第2四半期	292,417	85,617	24.3	479.86
29年3月期	288,999	82,107	23.5	458.07

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 71,137百万円 29年3月期 67,905百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
30年3月期	—	9.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	595,180	9.4	21,692	15.5	20,676	14.5	9,660	14.4	65.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

30年3月期2Q	149,640,445株	29年3月期	149,640,445株
30年3月期2Q	1,396,343株	29年3月期	1,396,423株
30年3月期2Q	148,244,099株	29年3月期2Q	148,709,513株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。上記予想に関する事項は添付資料の4ページをご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2017年4月1日から2017年9月30日)におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善などを背景として緩やかな景気回復基調で推移いたしました。一方で東アジアにおける地政学的リスクの増大などによる世界経済の不確実性の高まりにより、先行き不透明な状況が続きました。

外食産業におきましては、個人消費に持ち直しがみられるものの、依然として消費者の節約志向は強いこと、また、労働需給はタイトな状況が続いていること等により、厳しい経営環境となりました。

このような状況の中、「すき家」をはじめとする牛丼カテゴリーの既存店売上高前年比は101.8%、「ココス」、「ジョリーパスタ」をはじめとするレストランカテゴリーの既存店売上高前年比は99.1%、「はま寿司」をはじめとするファストフードカテゴリーの既存店売上高前年比は100.7%となりました。

当第2四半期連結会計期間末の店舗数につきましては、103店舗出店、52店舗退店した結果、4,932店舗となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高2,909億80百万円(前年同期比8.3%増)、営業利益100億27百万円(同5.9%減)、経常利益101億14百万円(同1.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益51億6百万円(同3.8%増)となりました。

セグメント別の概況につきましては、以下の通りであります。

① 外食事業

外食事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は2,483億49百万円(前年同期比4.2%増)、営業利益は97億66百万円(同5.7%減)となりました。

外食事業における主要カテゴリーの状況は以下の通りであります。

(牛丼カテゴリー)

牛丼カテゴリーの当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、61店舗出店、21店舗退店した結果、2,721店舗となりました。内訳は、「すき家」1,953店舗、「なか卯」462店舗(F C13店舗含む)等であります。

株式会社すき家本部が経営する牛丼チェーンの「すき家」につきましては、お客様の多様なニーズにお応えできるよう、「すき家de健康」をテーマとして、低糖質で食べごたえのある米粉入りコンニャク麺を使用した「ロカボ牛麺」(並盛税込490円)と「ロカボ牛ビビン麺」(並盛税込590円)を導入いたしました。また、スパイシーでさっぱりとした夏向けの「彩り野菜のスパイシーチキンカレー」(並盛税込580円)や自慢のタレで三度付け焼きを繰り返すことで、香ばしくふっくらとした蒲焼きに仕上げた「さんま蒲焼き丼」(並盛税込580円)と「さんま牛」(並盛税込680円)、2013年以降の発売となる「カレー南蛮牛丼」(並盛税込490円)を導入し、商品力の強化に取り組んでまいりました。

今後ともお客様に愛される店舗づくりを目指すとともに、安全でおいしい商品を安心して召し上がっていただけるよう、店舗水準の向上と品質管理の徹底に努めてまいります。

株式会社なか卯が経営する丼ぶり・京風うどんの「なか卯」につきましては、新商品・季節限定商品の投入や既存商品のブラッシュアップによる商品力の強化と店舗販促の実施により、業績の向上に努めてまいりました。

以上の結果、牛丼カテゴリーの当第2四半期連結累計期間の売上高は、1,023億22百万円(前年同期比4.3%増)となりました。

(レストランカテゴリー)

レストランカテゴリーの当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、16店舗出店、15店舗退店した結果、1,363店舗(F C78店舗含む)となりました。

株式会社ココスジャパンが経営するスタンダードレストランの「ココス」につきましては、メニューのラインアップの強化、ごちそう感のあるフェアメニューの投入及び店舗のサービス水準の向上に取り組み、業績の向上に努めてまいりました。

株式会社ビッグボーイジャパンが経営するハンバーグ&グリルレストランの「ビッグボーイ」等につきましては、メイン商品のブラッシュアップを図るとともに、サラダバー・スーパバーの充実やフェアメニューの投入を行うなど、業績の向上に努めてまいりました。

株式会社ジョリーパスタが経営するパスタ専門店の「ジョリーパスタ」につきましては、「パスタならジョリーパスタ」をテーマに、パスタ専門店の魅力をよりお客様へアピールできるよう、メニューのラインアップの拡充や旬の食材を活かした新商品の投入を行い、一層のおいしさを追求してまいりました。

株式会社華屋与兵衛が経営する和食レストランの「華屋与兵衛」につきましては、お客様の満足度の向上を図るため、旬の食材を活かした商品の開発及び店舗従業員の教育強化によるサービス水準の向上、労働生産性の改善等に努めてまいりました。

以上の結果、レストランカテゴリーの当第2四半期連結累計期間の売上高は、648億73百万円(前年同期比0.3%減)となりました。

(ファストフードカテゴリー)

ファストフードカテゴリーの当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、26店舗出店、6店舗退店した結果、726店舗となりました。

株式会社はま寿司が経営する回転寿司の「はま寿司」につきましては、積極的な出店による業容の拡大を図るとともに、商品品質の向上、店舗サービスの強化等に努めてまいりました。

以上の結果、ファストフードカテゴリーの当第2四半期連結累計期間の売上高は、656億99百万円(前年同期比6.6%増)となりました。

(その他カテゴリー)

その他カテゴリーの当第2四半期連結累計期間の売上高は、154億53百万円(前年同期比13.8%増)となりました。

当カテゴリーの主な内訳は、冷凍ピッツァ等販売の株式会社トロナジャパン、グループの物流機能を担う株式会社グローバルフレッシュサプライ、備品・ユニフォーム等を調達する株式会社グローバルテーブルサプライ等であります。

② 小売事業

小売事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は、426億31百万円(前年同期比41.0%増)、営業利益は2億60百万円(同12.1%減)となりました。

当事業の内訳は、スーパーマーケット事業を展開する株式会社マルヤ、株式会社マルエイ、株式会社尾張屋、株式会社フレッシュコーポレーション及び青果販売等の株式会社ユナイテッドベジーズ等であります。

(2) 連結財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産は、2,924億17百万円となり、前連結会計年度末から34億18百万円増加いたしました。これは主に、新店投資による有形固定資産の増加等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、2,068億円となり、前連結会計年度末から90百万円減少いたしました。これは主に、有利子負債の減少等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は856億17百万円となり、前連結会計年度末から35億9百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金の増加によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローにつきましては、税金等調整前四半期純利益の計上及び減価償却等により、176億94百万円の資金の増加（前年同期は213億46百万円の資金の増加）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローにつきましては、新規出店に伴う有形固定資産の取得等により、115億43百万円の資金の減少（前年同期は59億62百万円の資金の減少）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローにつきましては、借入金やリース債務の返済、配当金支払等により、45億25百万円の資金の減少（前年同期は192億44百万円の資金の減少）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前期末に比べ19億46百万円増の242億20百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2018年3月期の業績予想につきましては、2017年5月11日発表の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2017年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,274	24,220
受取手形及び売掛金	6,399	7,250
商品及び製品	18,471	17,450
仕掛品	752	743
原材料及び貯蔵品	4,355	4,396
その他	16,207	17,416
貸倒引当金	△11	△11
流動資産合計	68,450	71,467
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	181,641	186,222
減価償却累計額	△102,276	△105,838
建物及び構築物（純額）	79,364	80,384
機械装置及び運搬具	12,755	13,510
減価償却累計額	△6,772	△7,179
機械装置及び運搬具（純額）	5,982	6,331
その他	90,248	94,383
減価償却累計額	△45,601	△47,167
その他（純額）	44,646	47,216
有形固定資産合計	129,993	133,931
無形固定資産		
のれん	18,928	19,239
その他	2,971	3,117
無形固定資産合計	21,899	22,357
投資その他の資産		
投資有価証券	3,570	1,143
差入保証金	33,116	32,997
その他	31,887	30,458
貸倒引当金	△14	△14
投資その他の資産合計	68,561	64,584
固定資産合計	220,454	220,873
繰延資産	93	76
資産合計	288,999	292,417

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2017年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	19,046	17,348
短期借入金	2,662	5,149
1年内償還予定の社債	4,925	2,520
1年内返済予定の長期借入金	43,485	38,696
未払法人税等	2,491	2,208
引当金	1,869	2,063
その他	28,334	30,425
流動負債合計	102,815	98,411
固定負債		
社債	10,580	9,600
長期借入金	75,492	79,250
退職給付に係る負債	570	571
資産除去債務	2,396	2,430
その他	15,036	16,536
固定負債合計	104,075	108,388
負債合計	206,891	206,800
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,470	23,470
資本剰余金	24,261	24,261
利益剰余金	21,967	25,701
自己株式	△2,021	△2,021
株主資本合計	67,677	71,412
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	541	△41
繰延ヘッジ損益	51	△57
退職給付に係る調整累計額	△36	△33
為替換算調整勘定	△327	△142
その他の包括利益累計額合計	227	△274
非支配株主持分	14,202	14,479
純資産合計	82,107	85,617
負債純資産合計	288,999	292,417

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)
売上高	268,647	290,980
売上原価	113,249	126,571
売上総利益	155,398	164,408
販売費及び一般管理費	144,744	154,381
営業利益	10,654	10,027
営業外収益		
受取利息	191	215
受取配当金	2	1
受取賃貸料	112	107
為替差益	—	303
その他	360	312
営業外収益合計	666	939
営業外費用		
支払利息	556	427
賃貸費用	68	68
為替差損	286	—
その他	401	357
営業外費用合計	1,313	853
経常利益	10,007	10,114
特別利益		
固定資産売却益	7	3
投資有価証券売却益	0	94
受取補償金	—	31
その他	15	23
特別利益合計	22	152
特別損失		
固定資産売却損	0	3
固定資産除却損	489	653
その他	484	333
特別損失合計	973	991
税金等調整前四半期純利益	9,056	9,275
法人税、住民税及び事業税	2,509	2,486
法人税等調整額	1,097	1,391
法人税等合計	3,607	3,877
四半期純利益	5,449	5,397
非支配株主に帰属する四半期純利益	531	291
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,917	5,106

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)
四半期純利益	5,449	5,397
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	163	△582
繰延ヘッジ損益	△61	△108
退職給付に係る調整額	3	3
為替換算調整勘定	△1,272	190
その他の包括利益合計	△1,166	△496
四半期包括利益	4,283	4,900
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,771	4,611
非支配株主に係る四半期包括利益	511	289

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	9,056	9,275
減価償却費	9,114	9,269
のれん償却額	593	763
負ののれん償却額	△1	△1
賞与引当金の増減額 (△は減少)	361	176
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△3	△7
受取利息及び受取配当金	△193	△217
支払利息	556	427
為替差損益 (△は益)	157	△80
関係会社株式売却損益 (△は益)	△1	—
投資有価証券売却損益 (△は益)	△0	△94
有形固定資産売却損益 (△は益)	△6	0
有形固定資産除却損	505	643
その他の特別損益 (△は益)	78	47
その他の営業外損益 (△は益)	△1	△2
売上債権の増減額 (△は増加)	△424	△815
たな卸資産の増減額 (△は増加)	923	1,024
仕入債務の増減額 (△は減少)	△743	△1,742
未払消費税等の増減額 (△は減少)	435	147
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	867	△716
その他の固定資産の増減額 (△は増加)	587	407
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	1,136	2,059
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	△31	△120
小計	22,966	20,442
利息及び配当金の受取額	34	38
利息の支払額	△580	△440
法人税等の支払額	△1,073	△2,346
営業活動によるキャッシュ・フロー	21,346	17,694

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△10,533	△10,569
有形固定資産の売却による収入	3,282	73
無形固定資産の取得による支出	△242	△407
長期前払費用の取得による支出	△158	△50
投資有価証券の取得による支出	△0	△274
投資有価証券の売却による収入	0	985
事業譲受による支出	△402	—
貸付けによる支出	△79	△264
貸付金の回収による収入	0	0
差入保証金の差入による支出	△398	△464
差入保証金の回収による収入	441	612
関係会社株式の売却による収入	1,724	—
保険積立金の増減額 (△は増加)	△3	△3
権利金の増減額(△は増加)	△58	△58
長期前払家賃の支出	△1,132	△985
長期前払家賃の流動化による収入	1,777	—
その他	△179	△135
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,962	△11,543
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△3,005	2,480
長期借入れによる収入	7,000	20,663
長期借入金の返済による支出	△16,779	△21,694
社債の償還による支出	△2,675	△3,385
リース債務の返済による支出	△1,003	△1,077
自己株式の取得による支出	△2,000	—
自己株式の売却による収入	—	0
連結子会社の自己株式取得による支出	△0	△0
割賦債務の返済による支出	△22	△166
非支配株主からの払込みによる収入	108	111
配当金の支払額	△748	△1,334
非支配株主への配当金の支払額	△118	△122
財務活動によるキャッシュ・フロー	△19,244	△4,525
現金及び現金同等物に係る換算差額	△422	△31
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△4,283	1,593
現金及び現金同等物の期首残高	20,925	22,274
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	9	352
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	33	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,684	24,220

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	外食事業	小売事業			
売上高					
外部顧客への売上高	238,408	30,239	268,647	—	268,647
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,360	28	1,388	△1,388	—
計	239,769	30,267	270,036	△1,388	268,647
セグメント利益	10,358	296	10,654	△0	10,654

- (注) 1. セグメント利益の調整額△0百万円は、主にセグメント間取引消去であります。
2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	外食事業	小売事業			
売上高					
外部顧客への売上高	248,349	42,631	290,980	—	290,980
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,077	10	1,088	△1,088	—
計	249,427	42,641	292,068	△1,088	290,980
セグメント利益	9,766	260	10,027	0	10,027

- (注) 1. セグメント利益の調整額0百万円は、主にセグメント間取引消去であります。
2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
3. セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。